※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１０

令和５年度　書道科

教科	書道	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	書道Ⅰ　（教育図書）・書道Ⅰプライマリーブック						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書写の授業で学んだことを発展させて、芸術科書道では文字の表現の違いを学びます。
・漢字の書、漢字仮名交じりの書、仮名の書等を体験し、自分らしい文字を書くことができるようになることを目指します。
・芸術としての書を、自身表現として制作に取り組み、自らの意見や他者の意見を取り入れ、表現する事の意味を考えます。
・作品を鑑賞することで幅広い感性、鑑賞力を身に付けます。

２　学習の到達目標

・書の表現方法、多様性を幅広く理解し書写能力の向上と共に基礎的な技能を身に付けるようにする。
・書の良さや美しさを感じ取り、構想した表現を工夫し書の伝統や文化の意味を考える。
・書の幅広い活動に取り組み、書を愛好する気持ちを大切にして感性を高め、書を通じて心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現方法や形式、多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させると共に、書の伝統に基づいて作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書の良さや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に３段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	書体の変遷	・五書体の説明 ・自分の名前調べ（五書体）	・五書体を理解する。 ・名前の各書体を調べ五書体の違いに関心を持つことができる。 ・名前の五書体を理解し書けるようにする。	作品	プリント	振り返りプリント 観察
	楷書の学習	・九成宮醴泉銘、孔子廟碑臨書 ・楷書の古典臨書を通じて古典の書体に即した用筆、運筆、線筆、字形を理解する。	・楷書に関心、興味を持たせ歴史的位置づけを理解できる。 ・古典の用筆、運筆を修得できる。 ・古典から１つを選び半切 1/2 に臨書する。 ・作品を鑑賞しあい、書美に対する感性を身に付ける。	作品	プリント	振り返りプリント 観察
二学期	行書の学習	・蘭亭序、風信帖臨書 ・行書の古典臨書を通じて古典の書体に即した用筆、運筆、線筆、字形を理解する。	・行書に関心、興味を持たせ歴史的位置づけを理解できる。 ・古典の用筆、運筆を修得できる。 ・古典から１つ選び半切 1/2 に臨書する。 ・作品を鑑賞しあい、書美に対する感性を身に付ける。	作品	プリント	振り返りプリント 観察
	草書の学習	・書譜、十七帖臨書 ・草書の古典臨書を通じて古典の書体に即した用筆、運筆、線筆、字形を理解する。	・草書に関心、興味を持たせ歴史的位置づけを理解できる。 ・古典の用筆、運筆を修得できる。 ・古典から１つ選び半切 1/2 に臨書する。 ・作品を鑑賞しあい、書美に対する感性を身に付ける。	作品	プリント	振り返りプリント 観察

※令和４年度以降入学生用

二学期	篆刻の学習	・姓名印を刻す(白文印)。	・印の歴史と用途に応じた印の種類を理解できる。 ・印刀の使用方法を修得できる。 ・姓名を刻すことができる。 ・作品に押印するセンスを身に付ける。	作 品	プリント	振り返りプリント 観 察
	隷書・篆書の学習	・隷書は曹全碑臨書 ・篆書は泰山刻石臨書 隷書、篆書の古典を通じて古典の書体に即した用筆、運筆、線筆、字形を理解する。	・隷書、篆書に関心、興味を持たせ、歴史的位置づけを理解できる。 ・古典の用筆、運筆を修得できる。 ・隷書または篆書いずれかを選び半切 1/2 に臨書する。 ・作品を鑑賞しあい、書美に対する感性を身に付ける。	作 品	プリント	振り返りプリント 観 察
三学期	仮名の学習	・仮名の成立と特徴 ・高野切1．2．3種の臨書 ・仮名の古典を通じて用筆、運筆、線筆、字形を理解する。 ・カレンダー作成	・仮名に関心・興味を持たせ、歴史的位置づけを理できる。 ・高野切の用筆、運筆を修得できる。 ・作品を鑑賞しあい、書美に対する感性を身に付ける。	作 品	プリント	振り返りプリント 観 察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度